

会 告

Tetsu-to-Hagané Overseas 投稿論文寄稿規程改正について

Tetsu-to-Hagané Overseas はすでにご承知のごとく、広く海外へわが国の技術を紹介する目的で昭和 36 年より発行してまいりました。以来今日では、海外における会員ならびに購読者数も漸増し、非常な好評を得るにいたっております。

本会編集委員会では昭和 38 年「鉄と鋼」寄稿規程を改善し、以来内容の充実をはかつてまいりましたが、ひきつづき Overseas の寄稿規程についても検討してまいりました。今までは原則として、「鉄と鋼」に掲載された論文中より選定し、掲載しておりましたが、会員各位の強い要望により、今後自由投稿の形式をとり、わが国の優れた鉄鋼技術ならびに研究内容をより速みやかに海外へ紹介できるよう新たに Tetsu-to-Hagané Overseas 論文寄稿規程を設け、昭和 41 年 1 月 1 日から実施することになりました。

本会では会員諸兄のご協力を基に、本誌を内容の充実した権威ある学会誌とすべくさらに一段の努力を重ねていきたいと考えております。本会の意を諒とせられ奮つてご投稿下さいますようご案内いたします。

「Tetsu-to-Hagané Overseas」論文寄稿規程

(1) 本協会会員は本寄稿規定に従い、本協会英文誌「Tetsu-to-Hagané Overseas」に論文を寄稿することができる。

(2) 論文は、本誌に載せる前に、ほかの学協会誌およびそれに類する刊行物に欧文（英、独、仏）により発表されていないものに限る。

(3) 論文は、著者の独創的研究成果を主体としてまとめられたものとし、その研究成果がひろく鉄鋼に関する学術ならびに技術へ寄与すると認められるものでなければならない。

(4) 論文は、研究目的、研究方法、研究結果、考察（従来の研究との比較検討を含む）結論などが、正確にかつわかりやく記述されているものとする。

(5) 論文は英文とする。英文は正確であることはもちろん、文章の書き方が学術論文あるいは技術論文にふさわしい格調をもっていることが要求される。

(6) 論文には必ず 500 語以内の synopsis を添付する。synopsis は、それによつて論文の要旨が具体的にわかるように書かれていなければならない。

(7) 英文原稿の本文は、厚手のタイプ用紙（A 4 判）に上下おのおの約 3 cm の余白を残し、27 行詰、ダブルスペースとし、タイプライターをもつて清書する。英文原稿（図、写真、表を含む）は正副 2 通、論文および synopsis の日本語訳各 1 通（本会所定の原稿用紙使用）を提出する。また日本文原稿の左側に英文ページの変り目を書き入れる。

(8) 論文の原稿の長さは、表を含めてタイプ用紙 30 枚（表は 1 表をタイプ用紙 1 枚とみなす）以内とし、図、写真は原則として 10 枚以内とする。同一事項を図、表両方で表わさない。

(9) 単位は原則として CGS 単位系を用いるが、電磁気量の場合には MKS 単位系を用いてよい。単位の略記号は国際的慣用に従う。周知でない単位には略記号を用いない。

(10) 元素名、合金名、化合物名、学術用語などで、本文中にしばしば出てくるものは、文章の短縮を目的として記述の明確さを失なわない程度に、なるべく化学記号その他の略記号によつて示すが、その論文の主題となつている研究の領域で慣用的な短い名称、用語は記号表示しない。略記号を用いる場合には、本文中それが最初に出てくるところでその略記号の意味を明示する。（例）Austenite (γ)………、Lankford value (R)。

(11) ギリシャ文字、記号、上ツキおよび下ツキ添字などをペン書きするときにはていねいに記し、混同しやすい文字、記号はとくに注意して書く。（例 a と α ; P と p と ρ ; O と o と 0 ; Fe^{2+} , P_{H_2O} ）ゴシック、イタリックを指定するときは、その文字の下にそれぞれ $\sim$, — を付ける。

(12) 数式は印刷に便利のように注意し、 a/b , $(a+b)/c$ のように、不明確にならない程度になるべく少ない行数で表わすように書く。また数段にわたる複雑な数式はタイプでなくペン書きとする。

(13) 表、図、写真には別々に通し番号および説明文を付ける。その説明文のみによつて表、図、写真の意味が理解できる程度に簡潔に書く。写真には必ず倍率を記入する。

(14) 図および写真は横の刷り上がり寸法が下記のいずれかの寸法となるように、刷り上がり寸法の 2~3 倍とし、て下記の縮尺記号を赤字で記入しておく。（イ）横 8cm（縮尺記号 A）（ロ）横 17cm（縮尺記号 B）

刷り上がり後の縦の寸法は 25cm 以下とする。

図は厚手の白紙、オイルペーパー、または青色方眼紙を用いて正確に書き、図および図中の文字はローマン体で縮尺を考慮して十分な大きさおよび間隔をもつて正確に書く。

(15) 表, 図, 写真は散逸を防ぐため, タイプ用紙と同じ大きさの台紙に貼付し, 右下隅に著者名を記入する。表, 図, 写真は原稿本文中に挿入せず別紙とし, 原稿中には右欄外にそれらの挿入箇所を指定する。原稿本文中に表, 図, 写真挿入箇所を指摘し空白にあげない。

(16) 参考文献は通し番号を付け, 本文の最後一括して番号順に示し, 本文中における文献引用箇所にはその文献の番号(かつこ付き)を上つき小数字で示す。

参考文献は, 著者名: 雑誌名, 巻数, 発行年度, 号数, ページ数 の順に記載する。

(例) R. K. GLASS: Blast. Furn. & Steel Plant, 64 (1958) 2, p. 198~204

雑誌名は付表の略記例に従う。単行書は著者名: 書名, (発行年度) ページ数, [出版社名] の順に記載する。

(17) 寄稿論文の受理年月日は, 原稿が本協会に到着した日付とする。論文の内容の主要部が本協会講演大会あるいは会誌「鉄と鋼」で発表されている場合には, その講演論文または論文を脚注として示す。

(18) 寄稿論文は編集委員会において審査される。審査の結果, 修正, 加筆, 削除などが要求され, 原稿をいつたん著者に返送することがある。その場合修正原稿を1カ月以上経過して協会に再提出したときは, 新規提出とみなされる。

(19) 掲載論文については希望に応じ, 所定の料金で別刷を作製する。

付 表 文 献 略 記 例

雑誌名	略記	雑誌名	略記
Acta Metallurgica	Acta Met.	Journal of the Iron and Steel Institute	J. Iron & Steel Inst.(U.K.)
American Foundrymen's Society, Preprint	Amer. Foundrym., Preprint	Journal of Metals	J. Metals
American Institute of Mining, Metallurgical and Petroleum Engineers,		Les Mémoires Scientifiques de la Revue de Métallurgie	Mém. Scient., Rev. Mét.
— Blast Furnace, Coke Oven & Raw Materials Committee, Proceedings	Proc. Blast Furn.	Metal Finishing	Metal Finishing
— The Electric Furnace Committee, Proceedings	Proc. Electr. Furn.	Metal Finishing Journal	Metal Finishing J.
— National Open-Hearth Steel Committee, Proceedings	Proc. Open-Hearth	Metal Progress	Metal Progress
American Iron and Steel Institute,	Amer. Iron & Steel Inst	Metal Treating	Metal Treating
— Annual Statistical Report	—, Ann. Stat. Rep.	Metallüberfläche	Metallüberfläche
— Contribution to the Metallurgy of Steel	—, Cont. Met. Steel	Metallurgia	Metallurgia
American Society for Metals, Preprint	Amer. Soc. Metals, Preprint	Metallurgia Italiana	Met. Ital.
American Society for Testing Materials,	Amer. Soc. Test. Mat.,	Métallurgie et la Construction Mécanique	Mét. et Constr. Mécan.
— Preprint	—, Preprint	Modern Castings	Mod. Castings
— Special Technical Publication	—, Spe. Tech. Pub.	Revue de Métallurgie	Rev. Mét.
Archiv für das Eisenhüttenwesen	Arch. Eisenhüttenw.	Schweissen und Schneiden	Schweissen u. Schneiden
Blast Furnace and Steel Plant	Blast Furn. & Steel Plant	Sheet Metal Industries	Sheet Metal Ind.
British Iron and Steel Research Association, Reports	Brit. Iron & Steel Res. Assoc., Rep.	Stahl und Eisen	Stahl u. Eisen
British Welding Journal	Brit. Welding J.	Stal	Stal
Centre de Documentation Sidérurgie, Circulaires d'Informations Techniques	Centre Doc. Sidér., Circ. Inform. Tech.	Steel	Steel
Corrosion	Corrosion	Steel Processing	Steel Process.
Foundry	Foundry	Transactions of the Metallurgical Society, American Institute of Mining, Metallurgical & Petroleum Engineers	Trans. Met. Soc., Amer. Inst. Min., Met. & Pet. Eng.
Foundry Trade Journal	Foundry Trade J.	Transactions of the American Society for Metals	Trans. Amer. Soc. Metals
Giesserei	Giesserei	Transactions of the Institute of Metal Finishing	Trans. Inst. Metal Finishing
Iron Age	Iron Age	Transactions of the Institution of Mining and Metallurgy	Trans. Instn. Min. & Met.
Iron and Coal Trades Review	Iron & Coal Trades Rev.	Transactions of the Society of Automotive Engineers	Trans. Soc. Auto. Eng.
Iron and Steel	Iron & Steel	United States Bureau of Mines,	U. S. Bur. Mines,
Iron and Steel Engineer	Iron & Steel Eng.	— Bulletin	—, Bull.
Iron and Steel Institute, Special Reports	Iron & Steel Inst., Spec. Rep. (U. K.)	— Information Circular	—, Inf. Circ.
Jernkontrets Annaler	Jernkont. Ann.	— Mineral Industry Survey	—, Miner. Ind. Survey
Journal of the Institute of Metals	J. Inst. Metals	— Minerals Yearbook	—, Miner. Yearbook
		— Report of Investigations	—, Rep. Invest.
		Welding Journal	Welding J.
		Werkstoffe und Korrosion	Werkstoffe u. Korrosion
		Wire and Wire Products	Wire & Wire Products
		Zeitschrift für Metallkunde	Z. Metallkunde

第 71 回講演大会討論会テーマ変更のお知らせ

「鉄と鋼」第 11 号 (10 月号) にて第 71 回講演大会における討論会講演テーマならびに原稿募集について会告いたしました。募集テーマ中、製鋼関係テーマについて下記のごとく一部変更になりましたのでお知らせいたします。原稿締切日は 11 月 15 日です。奮ってご応募下さるようお願い申し上げます。

記

新テーマ 純酸素上吹転炉製鋼法における酸化反応の機構
旧テーマ 純酸素上吹転炉製鋼法における脱炭、脱硫の機構

会員名簿発行ならびに分譲のお知らせ

本年は会員名簿の発行の年に当り、12 月上旬に刊行の予定で現在編集作業を進めております。記載事項についてはできるだけ正確を期すため、会員各位にお問い合わせをいたしましたところ、多大のご協力をいただきありがとうございました。

本名簿は下記のように豊富な内容を盛り込み、会員相互の便宜が十分はかれるよう編集いたしております。本名簿は有償頒布となりますができる限り多くの皆様にご利用いただきたく下記ご案内申し上げます。

なお、問合せハガキの名簿購入欄に「要」とお書きいただいた方も、下記申込用紙にて現金同封のうえお申し込み下さるようお願い申し上げます。本名簿を刊行後ただちに入手されたい方は 11 月末日までにお申し込み下さい。

記

- 1) 名簿内容 定款・細則 役員 名誉会員
賛助会員 維持会員 正会員
外国会員 出版物リスト 表彰 支部役員
関連団体リスト
会社・大学研究所
会社工場
- 2) 刊行予定 昭和 40 年 12 月初旬
- 3) 分 譲 価格 会員 300 円 (送料不要)
非会員 600 円 (送料実費)
- 4) 申込方法 本誌添付の申込用紙にて代金同封のうえ現金書留にてお申し込み下さい。
- 5) 申込先 東京都千代田区丸の内 1 の 1 日本交通公社ビル 8 階
日本鉄鋼協会

.....切.....取.....線.....

会員名簿申込用紙

氏 名			
部 数	部	送 金 額	
名簿送付先			
領 収 書	要 ・ 不要		
領収書送付先			

学 協 会 記 事

第3回理工学における同位元素研究発表会

— 論 文 募 集 —

日本放射性同位元素協会・日本鉄鋼協会ほか 40 関係学・協会の共同主催で、標記研究発表会を開催いたします。この研究発表会の目的は、異なつた専門分野の研究者が一堂に会し、同位元素および放射線の利用の技術を中心とした研究、およびその技術の基礎となる研究の発表と討論を行ない、各専門分野間の知識と技術の交流を図ろうとするものであります。会員各位におかれましては、下記により多数ご応募、ご参加下さいますようお願いいたします。

記

発表申込締切 昭和41年1月31日(月)必着

発表申込があり次第所定の原稿用紙をお送りします。

講演要旨原稿締切 昭和41年2月28日(月)必着

会 期 昭和41年4月19日(火)～21日(木)の予定

会 場 東京大学

発表論文内容

それぞれの研究分野において、その専門的成果を得

るにいたつた同位元素および放射線の利用の技術に重点をおいた論文と、同位元素、放射線の利用の基礎となる研究論文とします。なお得られた専門的成果の報告も差しつかえありません。

研究の内容には、少なくとも一部に未発表の部分が含まれていることを必要とします。

第14回塑性加工シンポジウム開催案内

日本塑性加工学会主催、(協賛日本鉄鋼協会ほか)のもと第14回塑性加工シンポジウムが下記により開催されますので会員多数参加されるよう案内いたします。

記

日 時 昭和40年11月18日(木) 9:00～16:30

場 所 発明会館ホール

(東京都港区芝西久保明舟町17)

テキスト

代 金 一冊 500 円

申込方法 ハガキ大の用紙に部数、代金、出・欠、

通信先、氏名をお書きのうえ現金同封にてお申込み下さい。

申込締切日 昭和40年11月1日(水)

申 込 先 東京都港区麻布新竜土町10

東京大学生産技術研究所内

日本塑性加工学会

「内部摩擦の金属材料への応用」講習会のお知らせ

金属の微細組織と強度を研究するために内部摩擦は不可欠の手段となつて参りましたが、本講習会は内部摩擦の原理からはじまり、最近の発展ならびに問題点について解説するとともに、実地に測定を行なつて頂くような計画となつております。会員多数下記により御申し込みされるようお知らせいたします。

主 催 日本学術振興会 内部摩擦研究第133委員会
後 援 日本鉄鋼協会ほか3学会

記

日 時 昭和40年11月4日(木)、5日(金)、6日(土)
会 場 大阪大学工学部 メモリアルホール
申込期限 昭和40年10月20日
会 費 講習と実習料
一般 10000, 当会員 8000,
公立研究所 4000, 学生 1500
講習のみ
一般 6000, 当会員 5000,

公立研究所 4000

申 込 書 申込書に会費(現金)を添えて申し込み下さい。

申 込 先 東京都千代田区神田一ツ橋 1-1
日本学術振興会 第133委員会

講 演 内部摩擦測定法原理
東大工 和田八三久, ほか11件

第7回日本アイソトープ会議

— 論 文 募 集 —

わが国のアイソトープ・放射線に関する基礎研究ならびに各部門への利用は最近とみに活発さを加えておりますがこのときに当り、アイソトープおよび放射線に関連する基礎研究ならびに応用成果を発表し、その技術の向上と知識の普及を図り、わが国産業の振興と国民の福祉増進に資することを目的として開催されます。下記により会員多数のご応募、ご参加を希望いたします。

記

共 催 日本放射性同位元素協会・日本原子力学会

発表申込締切 昭和40年10月20日(水)必着

課題別、論文題名、所属、住所、発表者名を記入のうえハガキで申込むこと。

アブストラクト提出期限 昭和40年11月30日(火)

論文提出希望者は、所定の原稿用紙に(2000字)図表を含む)以内の和文アブストラクト(選考用)提出のこと。

なお選考の上採択された方には論文執筆要領などお送りいたします。

会 期 昭和41年5月16日(月)～19日(木)

場 所 東京都市センター

(東京都千代田区平河町)

申込先ならびに連絡先

東京都港区新橋 1-1-13

日本原子力産業会議 放射線開発課

Tel. (591) 6121～4

論文募集課題

1. 研究発表 アイソトープおよび放射線に関する物理・化学、安全取扱、測定、廃棄物処理、遮蔽および施設など、アイソトープならびに放射線を利用する場合の各専門領域に共通する最新の基礎となる研究あるいは技術に重点をおいたもの。

2. シンポジウム 次のテーマに合致するもの。

- 1) 分離精製におけるRIの利用
- 2) 放射化分析
- 3) オートラジオグラフィについて
- 4) 放射線合成
- 5) 公害調査におけるRIの利用
- 6) RIを装備した工業機械
- 7) 生命現象の研究におけるRIの利用(放射線生物学を含む)

なお詳細は連絡先へ問い合わせ下さい。

国際自動制御連合 (IFAC) 東京シンポジウム論文集予約申込受付

(Proceedings IFAC Tokyo Symposium on "System Engineering for Control System Design")

本年 8 月 25 日～28 日に東京で開催されました IFAC 東京シンポジウムの Proceedings (論文集) が、昭和 41 年春に発行の予定になりました。お求めになりたい方は部数に限りがありますので、お早めにお申込み下さい。

申込締切日 昭和40年11月3日必着

予約定価 4200円 (定価5000円)

申込方法 申込書に所要事項を記入の上、現金同封にてお申込み下さい。

ただしこの価額は国内向け郵送料を含みます。

申込書請求先 東京中央郵便局私書箱 1057 号

ならびに申込先 IFAC 東京シンポジウム委員会

X 線材料強度に関する討論会および見学会

— 疲 労 と X 線 —

開催日 11月12日(金)・13日(土)

申込締切 11月5日(金)

主催 日本材料学会X線材料強度部門委員会、日本材料学会九州支部
(協賛 日本鉄鋼協会九州支部、ほか)

会場 八幡製鉄所技術研究所 (北九州市八幡区枝光町 1)

参加費 無 料

懇親会 会費 1 名 1,000円 (12日(金)夜)

討論前刷 オフセット印刷 B5判 1部 300円

見学 八幡製鉄所技術研究所 (13日(土)午後)

申込先 日本材料学会討論会係 (京都市左京区吉田泉殿町 1 の101 Tel. 77-1912)
振替口座 京都 26625 番

申込方法 前刷ご希望の方は代金を添えてお申込み下さい。また見学ご希望の方は氏名、所属、連絡先など明記のうえお申し込み下さい。

プ ロ グ ラ ム

<11月12日(金)>

開会のあいさつ

X線による疲労の研究

α - β 二相合金の疲労

日本材料学会

X線材料強度部門委員長

京大工

岡山大工

小島 公平
平 修二
田 和男
本 長哲

昼 食 休 憩

薄鋼板の集合組織と絞り加工性

軸受鋼の摺動面における変形層について

アルミニウムのX線応力測定の実状

ドイツにおけるX線応力測定の実状

材料強度(疲労等)とX線に関する討論 (司会 平 修二)

八幡製鉄技研

鉄道技研

阪大基工

東北大工

長島 晋一
岩 本 貢
三 好 夫
辛 島 誠

閉会のあいさつ

日本材料学会九州支部長

谷 村 潮

懇親会

<11月13日(土)>

X線材料強度部門委員会開催 (於: 同技術研究所)

八幡製鉄所見学および近辺遊覧